

第3回酒田市史跡山居倉庫保存活用計画策定委員会 議事概要

開催日時：令和4年7月28日（木）13：30～15：15

開催場所：酒田市民会館「希望ホール」3階 小ホール

事務局：深松	司会あいさつ。
事務局	事務局の人員が若干変更したため改めて自己紹介。

1 開会

事務局：深松	開会あいさつ。 WEB 会議上の注意事項説明（オンライン、会場）。 欠席委員及びリモート参加委員の報告。 欠席：北野委員 リモート参加：平山委員、河村委員、山科委員 オブザーバー：渋谷、鈴木、小野 人事異動のあったオブザーバーの紹介。
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 教育長あいさつ

鈴木教育長	前回まで第5章まで協議をいただいた。本日は前回協議の検討結果を報告した後、第6・7章の「保存」と「周辺環境」について協議をお願いしたい。また、時間が許せば、活用について意見をいただきたい。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------

3 協議事項

事務局：深松	田中委員長へ議事進行を移す。
--------	----------------

(1) 第1・2回委員会協議結果に対する事務局検討内容について

事務局：川島	事務局より資料説明。 ・計画実施期間を10年間に定めた。総合計画の計画期間に合わせ、現総合計画の後期5年間＋次期総合計画の前期5年間とする。 ・史跡の本質的価値の考え方を改めた（別紙1）。 本質的価値と本質的価値を継承する価値に区分した。諸要素の区分を改めた。 ・現状と課題を改めた。地域の方々の活用、外来者の現状と課題を追加した。 ・大綱・基本方針に調査・防災・活用に関する記述を追加した
田中委員長	意見等はないようなので検討内容について了承とする。

(2) 「保存（保存管理）」（案）について

事務局：川島	事務局より資料説明。
--------	------------

平山委員	p. 4 右段「1 保存の方向性」 「創建時の造成に関する遺構」とあるが、「創建時」を具体的に示すのは難しく、ある程度の幅がある。「創建時以降の造成に関する遺構」の表現がよい。
事務局：川島	修正する。
崎谷委員	p. 4 右段「1 保存の方向性」 「河川護岸の変状・劣化に関するモニタリング」はいつ、誰が、どのように行う想定なのか。史跡指定範囲の話でよろしいのか。山居橋の橋台部分が史跡に含まれるが、その保存管理はどのように考えているか。活用に向けて素案に記載が必要なのか。
事務局：川島	河川管理管者は山形県だが、協定により酒田市に移管されている。整備に向けては酒田市がモニタリングを担うと考えている。 山居橋は交流観光課が所管、土木課が管理を行っている。現状の保存管理の方法を継続する。素案への記載については検討する。
荒木委員	p. 5 左段「建造物の保存管理」 建物の内部について触れていないが、活用を進めるにあたって、低温倉庫としての壁面などはどのように扱われるのか。
事務局：川島	内部についても検討・記載する。
平山委員	ケヤキの根をどう扱うのか。人を歩かせる方向なのか、歩かせないのか。石は取るとうかがっているが、具体的に裏側はどういった方向性なのか。
事務局：川島	例としては、石を取ってウッドデッキ等で土を踏まないように見学できるようなことを考えている。ウッドチップの敷き込みによる保護も考えられる。最終的には来年度の整備計画で定める。
平山委員	人に歩いて見ていただいて、保存・活用していく方向でよいのか。
事務局：川島	その通り。
文化庁：渋谷	p. 6、右段「5 維持管理の取扱い」 「崩落した石垣等の撤去」は維持管理として認めるのは厳しい。その他、いくつか日常の維持管理に当てはまるか難しい部分もあったので、まとめて連絡する。 「維持の措置」とは文化財が壊れつつある時にせざるを得ない措置。日常の維持管理で軽微なものは、保存活用計画に記せば許可申請が不要になるが、大きめのものには現状変更の手続きが必要。もう少し整理が必要。
事務局：川島	文化庁と協議する。
井上委員	基本的な事になるが、活用にあたって機器（通信設備など）を入れるのは許可が必要なのか。
事務局：川島	機器の内容や設置方法による。素案に無い案件は、その都度、文化庁に相談することになる。
井上委員	事前に機器を想定して記載する必要はないということか。

事務局：川島	その通り。
文化庁：渋谷	設備の新設は基本的に現状変更の申請が必要になると思われる。ただし、次回、活用の検討で整備に向けたある程度の方針を定め、計画に入れ込む方法はある。

(3)「周辺環境の保存」(案)について

事務局：川島	事務局より資料説明。 指針に無い項目であるが、山居倉庫を維持していくため、市景観計画を元に項目を設定した。
崎谷委員	この章を設定する目的は、史跡の周辺エリアをどう捉えるのかということ でよいか。その場合、景観形成重点地域と同じにする意図・メリットはな にか。新井田川が緩衝地帯から抜けてしまっているが、河川改修や整備の 際、指定範囲ではない、緩衝地帯にも入っていないところから何か出てき た場合はどう取り扱うのか曖昧になるのではないか。
田中委員長	山居倉庫にとって水辺の環境は重要。
事務局：川島	景観・眺望の保護を目的とする。緩衝地帯の範囲については、再度検討す る。
崎谷委員	河川を入れた方がよいかどうか、専門的な意見をお聞きしたい。
事務局：川島	文化庁からご意見いただきたい。
文化庁：渋谷	周辺環境の保全は、世界遺産のバッファゾーンの考え方に通じるもの。史 跡だけでなく周辺から史跡本体を保護する取り組み。山居倉庫の保存活用 計画がどの範囲までを取り扱うのか、第1章で明確にすれば、周辺環境の 保全についても定まるのではないか。
事務局：川島	計画範囲は今後提示する。水辺については、計画に入れる方向で検討した い。
井上委員	水辺の空間については、本計画と県の河川管理の立場はどちらが上位にな るのか。計画に河川・護岸に関する内容を記載することで、上位協議が可 能なのか、拘束力はないが指針として範囲が決められるのか、願望という 位置づけで終わるのか。
事務局：川島	事務局で調整する。
田中委員長	線引きは現実的に難しい。河川範囲を引き直すようなことはできない。緩 衝地帯という表現で具体的な内容に触れられるかという話だと思う。

6 その他

事務局：川島	次回委員会で活用・整備の方向性・方法を示すことになる。出席委員から、 活用に関するご意見をいただきたい。
清野委員	本質的価値を損なわないのが本計画の目的の一つと考える。それを超えな い範囲での活用はどんどん行い、活気のある町にしていきたい。市民

	が気軽に立ち寄り、交流人口を拡大するような整備活用を進めて頂ければと思います。
崎谷委員	<p>山居倉庫といえばケヤキと倉庫群だが、倉庫群としての価値・魅力は水辺との関係にもある。資料館のミニチュアのように、人の活動が水辺の倉庫群の空間と連続的に感じられるような場所になればよいと思う。</p> <p>ミニチュアは昼の風景だが、夜の山居倉庫も活用できれば素敵だと思う。今までと違うイメージを作ることも、山居倉庫の保存・活用に意味があることになる。</p> <p>守るべきものは守りながら、たくさんの人が訪れてくれること、教育や学びも大事、色々な方が、色々な時間帯や風景の中で、楽しみながら大切に守っていけるようにしていただきたい。</p>
井上委員	日和山公園と一緒に、まずは市民に愛される場所にならなければいけないと思う。そうしなければ観光にも使えないのではないかな。そういった中で歴史や文化を継承していければと思う。
荒木委員	<p>12棟もあるので観光の拠点になることは間違いない。市民が使う、飲食も候補になるが、酒田の課題には宿泊施設の不足もあるので幅を広げてもよいのではないかな。</p> <p>酒田のふるさと納税が35億位集まっていて、7割強が米で形成されている。本質的価値を継承するに当たっては、再度、米蔵として県内の米を山居倉庫から出荷していくのもストーリー性があって面白いのではないかな。</p>
佐藤委員	文化財の保存はどうしても建物などになるが、使い方が非常に重要。観光客に目がいきがちであるが、市民の大事な場所として、歴史を紐解きながら、新たな生産性が作れるような土地にしていければと思う。
中村委員	山居倉庫の活用方法で山形県へ要望させていただいた事項を紹介する。県営の文化施設を庄内地区に設置することをお願いしている。具体的には、山形県立博物館の移転整備計画があり、最上川舟運で形成された歴史文化を発信する資料館の整備を、山居倉庫の中に分館でも構わないので誘致できないか要望を出している。
渡部委員	ケヤキをどのように保全するのかが課題。おおよそ6m間隔で植えてあるが、最低でも12mは必要。間引くと並木にならない。この計画は10年計画だが、4～5年計画で考える必要があると思う。河川沿いのクロマツも保全が必要だが、機械も入らないので手が掛けられない。マツクイムシにやられると景観が悪くなるおそれがある。
河村委員	交易・興隆の場所だったこと、市民の生活の場としての活用、酒田のものを外に発信・販売する場、酒田市内や庄内エリアの観光の起点になるような仕掛け、市街地と山間部を大きくつなぐ起点になるような具体的な活用案を次回お話しできればと思う。
山科委員	現状は土産購入しかお金が落ちる所が無い。滞在時間も短いと思う。観光

	<p>スポットとして集客力が高いので、何か体験ができる、ポップアップストアのような形で数週間～数か月単位で体験型ショップや企業やお店とコラボするなど、観光客だけでなく、地元の方がお金を落とす仕組みを作ってはどうか。若い層が来たくくなるような仕掛け、いつでも行けるではなく、今しかできない仕掛けが求められるのではないかな。</p> <p>移住者への出店支援としても活用できるのではないかな。山居倉庫の価値理解を前提とした市・関係機関の審査があれば、トラブルも少ないのではないかな。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

7 閉会

事務局：深松	閉会のあいさつ
--------	---------